

令和4年度 第3回千歳市公立大学法人評価委員会 議事要旨

1 日時 令和4年8月2日（火） 14時から15時50分まで

2 場所 千歳市役所庁議室

3 出席者

【委員】 委員長 佐伯 浩
委 員 小川 恭孝（オンラインで出席）
委 員 福村 景範
委 員 北村 茂樹
委 員 千葉 崇晶
【千歳市】 企画部 品田部長 小尾次長
公立大学政策課 佐藤課長 増田係長
産業振興部科学技術振興課 藤木課長

4 傍聴者 4名

5 会議次第

- ・開会
- ・議題
 - （1）公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和3年度業務実績評価書（案）について
 - （2）その他
- ・閉会

6 会議の概要

（1）結果概要

第2回評価委員会における意見を踏まえ作成した令和3年度業務実績評価書（案）について審議を行った。本日の意見を踏まえ評価書（案）を修正することとし、その内容確認については委員長に一任された。また、評価スケジュールについて説明し、了承された。

（2）議事概要

議題（1）公立大学法人公立千歳科学技術大学 令和3年度業務実績評価書（案）について評価書（案）について事務局が説明し、その後審議を行った。

【事務局】 資料1は前回の評価委員会でいただいた意見を反映した評価書（案）、資料2は評価書の小目別評価（案）、参考資料1は資料1を作成するにあたり前回会議の評価書作成例からの変更点を見え消しにしたもの、資料3は今後のスケジュール、参考資料2は前回会議での質問に対する大学からの回答資料となっている。手順として、はじめに資料2、その後に資料1を説明し、次にご意見・ご質問があった事項の説明し、審議をしていただく。

まず、資料1及び資料2について、変更点の概略を説明する。

資料2、令和3年度業務実績評価書、小項目別評価（案）について、3ページの上段、番号3、オープンキャンパス等の実施による受験者数増加の取組については、委員会の評価をAとし、評価委員会意見等として、「受験者数の安定的な増加に寄与している」旨、記載した。

次に20ページの下段、指標⑪、公開講座の満足度について、評価は変更しないが、評価委員会意見等として、「実績は初年度から目標値を上回っているので、今後は成果が見えるような記載を」とした。22ページの指標⑭地域連携センター情報発信数、26ページの中段、指標⑰コンテンツ改修件数も同様に意見を付している。

次に24ページの上段、指標⑮、地域連携センターの研究教育活動について、評価は変更しないが、評価委員会意見等として、「今後、新たな産業の創出につながるような成果を期待する」旨、記載している。

26ページ上段の番号49、eラーニングシステムによる学力向上の取組について、評価をAとし、評価委員会意見等として、「地域の教育の振興に貢献している」旨、記載している。

38ページ下段の指標⑲、奨学寄附金の実績について、評価は変更しないが、評価委員会意見等として、「ほぼ目標を達成していると認められる」旨、記載した。

資料1の業務実績評価書（案）についてであるが、まず、3ページの「総評」の赤書き部分、C評価が1項目としていた記載を、B評価が1項目という記載に変更している。これは、5ページの表、項目別評価結果で、5行目の「財務内容の改善及び効率化」の項目は、奨学寄附金の指標を作成例の段階ではC評価としていたものをB評価とし、この項目別の評価もB評価としたため、これに伴い3ページの記載部分を変更している。

4ページの上の赤書き部分は、eラーニングシステムの申込者数が増加し教育環境の向上に貢献したことを説明している。下から2段目の段落は、大学の実績報告書の記載方法について、成果や貢献度をより具体的に記載する必要がある旨、記載している。一番下の段落では、情報棟が完成し学習活動の活性化に努めていること、地域における研究教育活動について着実に実績を重ねていることを説明している。

6ページの「教育研究の質の向上に関する目標」では、中段の項目別評価結果の表について、A評価の小項目を10項目、B評価を28項目とし、一番下の行から7ページにかけて、赤書きで、オープンキャンパス等の実績から受験者数の安定的な確保に寄与しているため、A評価を妥当と判断した旨、記載している。

8ページの「地域社会等との連携・教育に関する目標」については、A評価の小項目を2項目、B評価を14項目とし、一番下の行から9ページにかけて、赤書きで、eラーニングシステムが教育環境の向上に貢献しているため、A評価を妥当と判断した旨、記載している。

14ページの「財務内容の改善に関する目標」については、中段の項目別評価結果の表を、奨学寄附金の指標をB評価としたため、C評価はゼロ、B評価1項目とした。

15ページに、「項目別評価結果」については、指標の一つが目的未達成であるためB評価とした旨、また、奨学寄附金の指標は未達成であるが、ほぼ目標を達成しているためB評価とした旨、記載している。

次に、前回会議におけるご意見・ご質問に対する事項を説明するので、個別に審議をお願いしたい。

《オープンキャンパス等の実施について》

【事務局】 小項目別評価（案）3ページの番号3、「オープンキャンパス開催や進学相談会への参加」について、コロナ禍でも受験者増につながるオープンキャンパス等の各種イベントを数多く実施し

ているが、大学ではB評価としている。A評価が妥当との意見があったため、右の列の意見欄に、受験者数の安定的増加に寄与していることからA評価を妥当と判断する旨、記載し、評価書（案）の6ページの最後の行から次のページにかけ、項目別評価の評価理由にも同様の記載をしている。なお、大学からは、参考資料2 業務実績報告書確認事項の1ページの〈質問1〉において、大学見学を中止したため、B評価としたとの回答を得ている。審議をお願いしたい。

【委員A】 「大学見学」を中止したのは、文部科学省から抑えるように通知があったのか、科技大単独の判断なのか。

【事務局】 国の指示はなく、大学により対応が異なり、見学者を受け入れた大学、受け入れなかった大学があったようである。

【委員長】 国はそうしたことは言わない。各大学の判断で注意してやってくださいということである。

【委員A】 大学としては行わなかったためB評価としたということで理解した。

【委員長】 北大でも小規模な文学部は行ったが、大規模な工学部は中止した。科技大は自らの判断で行わなかったため、B評価としたということだが、委員会としてはA評価でよろしいか。

【各委員】 ～了解～

《入試概要の公表について》

【事務局】 3ページの番号4、「入学者選抜制度概要の速やかなホームページでの公表」について、「3月に公表は、特段早いということでもないと思う。大学がA評価とした理由は何か」との質問があり、大学からは、業務実績報告書確認事項の〈質問2〉にあるように、令和2年度の自己評価を見直したところ、受験生への配慮、文部科学省の期限を大幅に上回っていることに鑑みて、A評価としたとの回答を得ている。小項目別評価（案）では、A評価を案としている。審議をお願いしたい。

【委員A】 入試は3月で、文科省の通知は前年の7月、大学の公表がその4か月前の3月（入試の1年前）ということであれば、A評価でよいと思う。前回は、勘違いをしていて入試を行う3月と混同してしまったため、わかりやすく記載していただきたい。前年度の3月に公表し、文科省より4か月前倒しした、と書いていただければ十分納得できる。

【委員B】 受験生は複数の大学を受験するため、一日も早く情報を入手したい一方、大学はライバル校の動向を見ながら公表するところもある。受験生のためにはストレートに公表したほうがよい。その意味ではA評価でよろしいか。

【各委員】 ～了解～

《学会での英語による発表実績について》

【事務局】 11ページの指標⑤、「博士前期課程科目 English Presentation Skill の履修を引き続き推奨する」について、「ロードマップの令和3年度目標値が70%に対し実績は47.5%と大幅に下回っているが、大学の評価はB評価としている。目標を下回った理由とB評価とした理由は何か」との質問があり、大学からは、業務実績報告書確認事項の2ページ目〈質問3〉にあるとおり、目標を下回った理由は、大学として海外渡航を自粛したことなどにより、国際的な学会発表が1回に限られ、このほかには、英語による修士論文要旨の発表のみであったため目標を下回ったとの回答を得ている。また、B評価とした理由は、年度計画のEnglish Presentation Skill の履修の推奨であるため、履修状況も評価し、前年度とほぼ同水準の履修状況であったことから、B評価としたとの回答を得ている。小項目評価（案）では、B評価としている。審議をお願いしたい。

【委員B】 海外旅費に対する助成金は、奨学寄附金などから出すこともあるが、個人負担か、大学から出るのか。

【事務局】 大学の予算から学生に助成していると伺っている。

【委員C】 学会発表は1回に限られたと書いてあるが、なお書きで対面での発表は令和2・3年度はなかったと書いてある。これは、オンラインでの発表が1回だけということか。

【事務局】 そのとおりである。

【委員C】 また、履修状況が前年度と同水準であったため、B評価としたとあるが、履修状況とは具体的にどのようなことを指すのか。

【事務局】 博士課程の全学生が英語の履修が必要であるが、「English Presentation Skill」という科目は、学会発表ができる高いレベルの科目であり、これ以外にももう少し基礎的なレベルの科目が2つある。学生は自分のレベルに合った科目を受講しているという状況のため、当該科目の受講率としては前年度と同程度ということ伺っている。

【委員C】 博士課程の学生が40人いて、17人が履修した結果、42.5%となり、令和2年度とあまり変わらなかったということで理解した。

【委員B】 評価書（案）のとおりでよろしいか。

【各委員】 ～了解～

《指標に対する実績に記載内容について》

【事務局】 20ページの指標⑪、「公開講座の満足度」、22ページの指標⑭、「地域連携センター情報発信数」、26ページの指標⑰、「eラーニングシステムコンテンツ改修数」の3指標について、意見として、「初年度から目標値を上回っており、目標の見直しや前倒しを行うことが望ましいのではないか、見直し等が難しいのであれば、実績に加え、具体的な成果が見える形で自己点検・評価を記載してはどうか」とのことで、その旨を、評価委員会意見等の欄に記載している。記載内容について審議をお願いしたい。

【委員D】 質の部分が一番重要であることから、記載されている内容でよい。

【委員E】 確かに前回このようにしましょうという議論があり、事務局で正確に反映していただいたと思うが、大学で対応できないのではないかという心配がある。例えば20ページの指標⑪の公開講座の実施は、具体的な成果が見える形で、自己点検・評価に記載してほしいとしているが、見える形で成果を評価するのは非常に難しいのではないか。満足度であれば参加者にアンケートを答えていただくことはできるが、その結果、その分野での市民の教養が高まったかどうかを評価させることは、大学に過度な要求をしているのではないか。

【委員A】 アンケートをしっかりと書いていただいて、その結果よかったかどうか、役に立ったかどうか、それだけでも十分であると思う。それも書いてないので、最低そのぐらい書いていただきたい。ただやりました、だけではなくて、アンケートの結果があればいいのではないか。確かに正確には把握しづらいと思う。

【委員E】 業務の実績として、令和3年度に3回実施して、平均の満足度が98.3%と出席された方は皆さん満足しているので、見える形になっていると思う。アンケートの項目を少し丁寧に用意して、その内容を反映していただきたい、という趣旨が伝わるようにするとよい。

【委員B】 細かいことも聞いていると思うので、アンケートの内容も書いた方がわかりやすい。

【委員E】 同じように22ページの指標⑭の地域連携センターの情報発信数についても、具体的な成果が見える形で記載していただきたいとあるが、発信した結果どのようなになったか、結果を見るとするのは難しいと思う。

【委員A】 確かに指標は4回以上で、実績は4回あるので、評価上は問題ない。ただ、評価する側としては、何か1つ2つ、具体的な成果がなかったか知りたい、4回やりました、その結果、1回でもいいから何がよかったかということ、知りたい気持ちが評価委員としてある。

【委員E】 特徴的な成果があれば、それを積極的に記載していただきたいという文言にしてはどうか。

【委員D】 公開講座の目的があって、それに対してどのような結果であったかという評価を書くとわかりやすい。

【委員B】 アンケートの中身についても触れてあると信頼性が高まる。

【委員A】 評価についても少しずつグレードアップしてきて、今までは回数だけ、満足度だけでよかったが、その内容を少しずつ展開して、評価の方法もグレードアップし、表現の仕方もグレードアップしていきましょう、ということである、最終的には、そのようにしてよくなった形の評価方法ができていく。

【委員E】 26 ページの指標⑦、コンテンツの改修件数が書かれているが、この欄についても、特徴的な成果を丁寧に記載していただきたいということによいか。

【委員B】 3項目については、アンケート結果等、すべてを書く必要はないが、特徴的な成果を記載してほしいという趣旨のコメントでよろしいか。

【各委員】 ～了解～

《地域における活動実績について》

【事務局】 24 ページの指標⑤、「地域における研究・教育活動実績」について、「活動実績に対し、今後、具体的な成果が得られるよう、千歳発の新たな産業の振興や起業に結び付ける、育てるといったところまでより広がることを期待する」との意見があり、評価委員会意見等の欄に意見の内容を記載し、また、評価書（案）の4ページ下から2段落目「総評」の中に、「地域における研究・教育活動については、地域連携センターを中心に着実に実績を重ねていることなど、中期計画の達成に向け、堅実に歩みを進めている」と表現している。記載内容について審議をお願いしたい。

【委員A】 24 ページに書かれている、新たな産業の創出につながるような大きな成果を期待します、ということによいと思う。評価委員としてはこういうことを期待している、研究ばかりではなく、新しい事業をしましょう、ということである。

【委員B】 記載のコメントでよろしいか。

【各委員】 ～了解～

《e ラーニングシステムの活用について》

【事務局】 26 ページの番号 49、「e ラーニングシステムを活用した学力向上の取組」について、「市内小中学生をはじめ地域の学習環境の向上に大いに貢献しており、今後とも推進に努められたい」旨の意見があり、A評価との判断であったことから、評価委員会意見等の欄に意見の内容を記載してA評価とした。また、評価書（案）の8ページの一番下の行から9ページにかけ、同様の内容とA評価とした旨を記載し、4ページの上から2段落目「総評」の中にも同様に評価した旨、記載している。なお、大学からは、参考資料2 業務実績報告書確認事項2 ページの＜質問4＞において、学生が道内市町村に赴いて行う講習会が、教員のオンライン型のみとなったため、B評価としたとの回答を得ている。記載内容について審議をお願いしたい。

【委員A】 大学側は、オンラインのみなので、B評価と書かれているが、遠慮しているのではないか。オンラインで成果が上がらなかったということか。対面でなくて、オンラインのためB評価にしたということであればそれでもよいが、オンラインであろうが対面であろうが成果は上がると思うので、この状況下ではA評価でよいと思う。

【事務局】 例年は学生が行って講習をしていたが、3年度は教員のオンライン型しか行えなかったとのことである。

【委員B】 コロナ禍において十分行ったと認められるため、A評価としてよろしいか。

【各委員】 ～了解～

《奨学寄附金について》

【事務局】 38 ページの指標⑨、「奨学寄附金を 10 件以上にする」という奨学寄附金実績が目標を達成しておらず、B評価、C評価のいずれが妥当かという点について、右側の列の評価委員会意見等の欄にあるように、厳しい社会情勢の中、実績が9件となり、ほぼ目標を達成していると認められることから、B評価が妥当と判断するとしている。評価書（案）では、15 ページの上から2段落目に、同様の趣旨を記載し、次の段落で、今後は、厳しい経済環境や企業が受託・共同研究に切り替えていることから、外部資金獲得の実績全体で評価することも必要である旨、記載している。記載内容について審議をお願いしたい。

【委員B】 コロナ禍でもあり、この時代に企業として見返りのない奨学寄附金を出すことは難しく、減ることはあっても増えることは考えづらい。そうした中で9件の実績があったことは評価できる。日頃の大学のサービスがよいから集まったのではないか。企業からの資金の集め方はいくつもあり、国立大学でも外部資金の獲得に努めるが、一番大変なのが奨学寄附金であり、なかなか出してくれるものではない。

【委員A】 私も企業にいたが、奨学寄附金を出す場合は相当大的なコネクションというか、人的な関係があるからこそ出せるが、簡単なことではない。

【委員B】 奨学寄附金の実績が9件あるということは、社会からの信頼の証であるといえ、B評価が妥当ということではよろしいか。

【各委員】 ～了解～

《利益額の表示について》

【事務局】 39 ページの指標⑩、「健全な財務運営のため、収支均衡を図る」について、「損益計算書では185,250千円であったとしているが、決算報告書では182,807千円である。一致しない理由は何か」との質問があった。大学からは、確認事項の資料3ページの〈質問5〉のとおり、決算報告書は、現金主義によるもの、また、損益計算書は発生主義によるものであること、例として、(1)の固定資産の取得は、決算報告書には計上されるが、損益計算書には、費用でないため計上されない、こうしたことから、決算報告書の収支と損益計算書の利益の額は一致しない、との回答を得ている。

【委員C】 一致しないのはわかるが、(1)から(5)の中でそれぞれの項目でいくら差が出ているのかを知りたかった。

【事務局】 参考資料2の最後に、差異の内訳がわかる資料を添付している。差異の合計は大きくないが、各科目での差異の積み上げとなっている。公立大学の利益については、市の水道局などでも、損益計算書と決算書で差異が生じている。

【委員B】 なぜこのような形態になったかというのはわからないが、国立大学が法人化し、公立大学が法人化していくことになった時に、文科省は、評価する時に自分たちの視点に合う数字が必ずどこかに出てくることを目指して、このようにしたのではないか。経理の担当者は法人化によって、急に会計処理の方法が変わり、大変であったと聞いている。

【委員C】 内容については理解した。来年度以降、同様の書類を付けるように伝えていただきたい。

【事務局】 そのようにする。

《施設設備整備補助金について》

【事務局】 業務実績確認事項の資料の4ページ<質問6>の決算報告書について、「施設設備整備補助金の支出額が補助金の収入額に対して少ないが、執行残で差額が生じた場合、市に返還すべき剰余金となるのではないかと。剰余金が発生しないのであれば、他の目的で予算執行した理由は何か」との質問があった。大学からは、「予算作成の段階では、事業の詳細が不明確なため、全額を、固定資産を取得するという前提で施設設備整備事業費に計上している（下の表の支出の④）。事業実施に伴い、固定資産の取得にならない修繕費などの費用が発生し、教育研究経費や一般管理費で会計処理することがある（下の表の⑤、⑥）。このため、決算報告書では、施設設備整備事業費の支出額と補助金の額が一致しないこととなるが、実際の収入額と支出額は一致している。」との回答を得ている。

【委員C】 質問したのは、決算報告書の決算欄の収入にある施設設備整備補助金が12億3,865万円で、下の支出の施設設備整備事業費が11億6,800万で、7,000万ほど差が出ているのはなぜか、ということである。回答としては、施設設備整備事業費だけではなく、教育研究費や一般管理費の科目に計上されているが、補助金は全額使われているということであった。その内容で納得した。

《業務実績報告書の記載方法について》

【事務局】 資料1の実績評価書の4ページの下から3段落目にあるとおり、業務実績報告書の記載方法について、具体的な成果など記載してほしいとの意見があり、業務実績報告書における「全体評価」の記載方法について、人材育成、地域貢献、国際化などに絞り主な実施内容や成果を具体的に記載すること。また、「法人による自己点検・評価項目」の記載方法について、具体的な成果や貢献の程度、すなわち「質」がわかりやすくなるよう記載するなど、表現方法の工夫が必要である旨を記載している。記載内容について審議をお願いしたい。

【委員B】 特に問題ないということでしょうか。

【各委員】 ～了解～

【事務局】 同じ4ページ下から2段落目には、情報棟が完成したので、総評に今後の大学の活性化が期待される旨の記載をしてほしいとの意見があったことから、情報系教育・研究体制の強化を通じて学生の学習活動のさらなる活性化に努めていると記載している。記載内容について審議をお願いしたい。

【委員B】 特に問題ないということでしょうか。

【各委員】 ～了解～

《その他意見》

【委員D】 評価書には、今後期待することが個別に書かれているが、総括にも次年度特に期待することを書いたほうがよいのではないかと。

【委員B】 日本の大学は、国際化に向けて取り組んでおり、海外学生の留学希望者は多いが、留学生向けの寮が少なく、国から寮に対する補助金もなくなり、受け入れるための住環境が脆弱である。一般の住宅を借りると生活費も高くなるため、日本に来ることができないケースもある。

【委員A】 総評の最後の段落に、具体的な内容があるとよい。我々としては、自己評価をAやBに甘んじることなく、Sとなるよう取り組んでほしい。現状、Aは28%、Bが70%であるが、今後、Aが50%・70%と向上していかないといつまでも進歩がない。

【委員B】 かつては、教員を中心に学生等が協力して活動するという形であったが、今は教員が減り、自分の範囲で手一杯となっている。教員と事務職員との間をつなぐ人材がいるとよい。

【委員D】 個人的には、教育研究や地域連携の分野で頑張っていただきたい。

【委員B】 大学は、就職に関して、学生にどのようなアドバイスをしているか。大学は、民間企業だけでなく官公庁など、学生が同じ分野に偏らないよう幅広く就職させる戦略・展望が必要である。大学のためでもあり、後輩の就職にも関わってくるため、公立化後、最初の卒業生が社会に出る前から、大学の戦略と学生の思いをマッチングさせるような取組を意識してほしい。

【委員B】 いただいた意見を踏まえ、事務局で評価書の文言を修正してもらおう。最終的な評価書案の決定は、私に一任していただくということでよいか。

【各委員】 ～了解～

議題（２）その他

特になし